隠岐地域農業の概要

令和２年４月　隠岐支庁農林局

目　　次

Ⅰ 管内農業の概要について

１ 耕地面積の推移・・・・・・・・・・・・・Ｐ １
２ 販売農家数の推移・・・・・・・・・・・・Ｐ ２
３ 新規就農者数の推移・・・・・・・・・・・Ｐ ３
４ ＪＡ品目別販売額・・・・・・・・・・・・Ｐ ４
５ 肉用牛の飼養戸数、頭数の推移・・・・Ｐ ５
６ 規模別飼養農家数等・・・・・・・・・・・Ｐ ６
７ 隠岐地区子牛市場平均価格の推移・・・Ｐ ７
８ 農業参入企業の概要・・・・・・・・・・・Ｐ ８

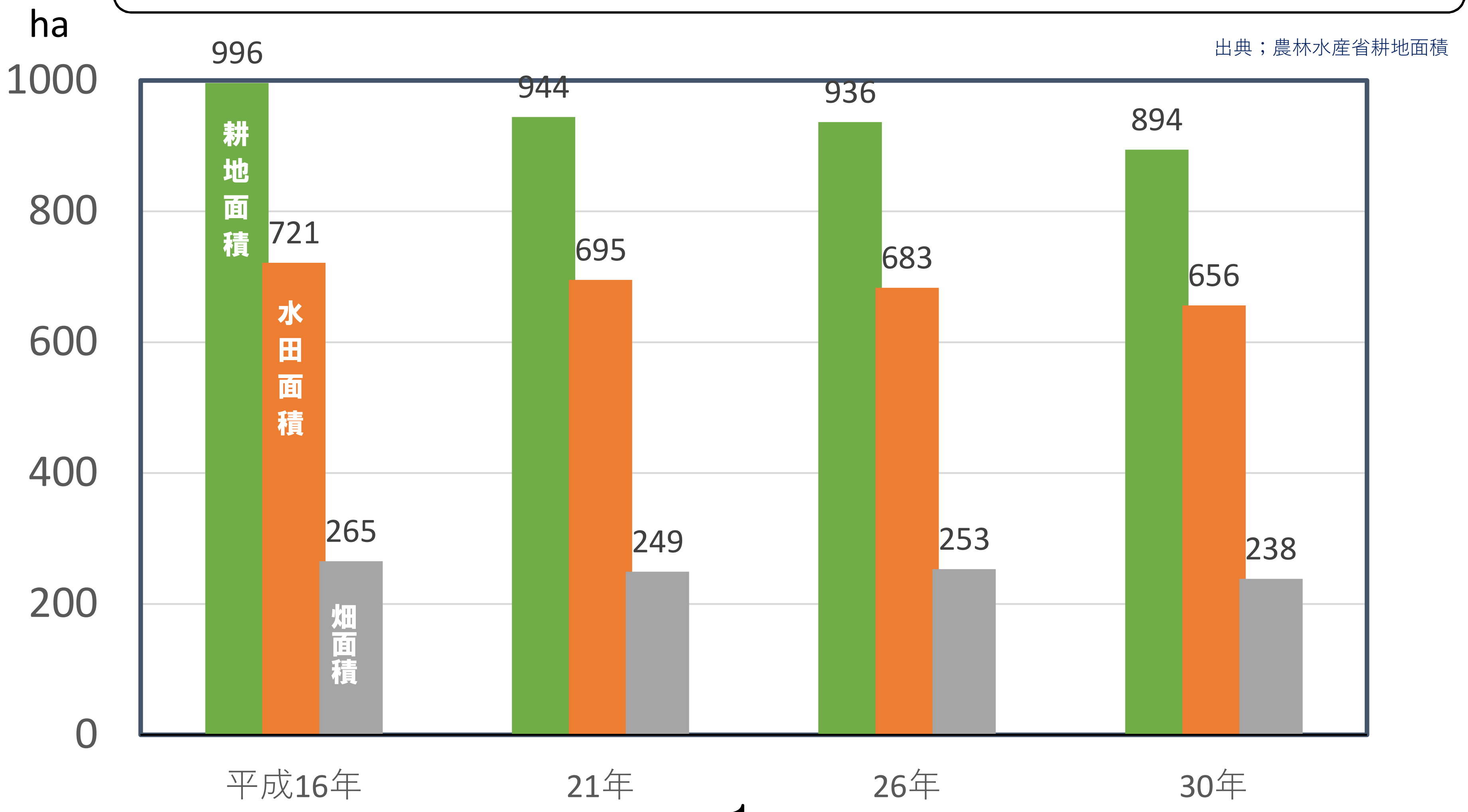
Ⅱ 主な取組について

１ 隠岐牛の産地強化の取組・・・・・・・・Ｐ ９
２ 水田農業の取組・・・・・・・・・・・・・Ｐ１１
３ 地産地消の取組・・・・・・・・・・・・・Ｐ１３

Ⅰ 管内農業の概要

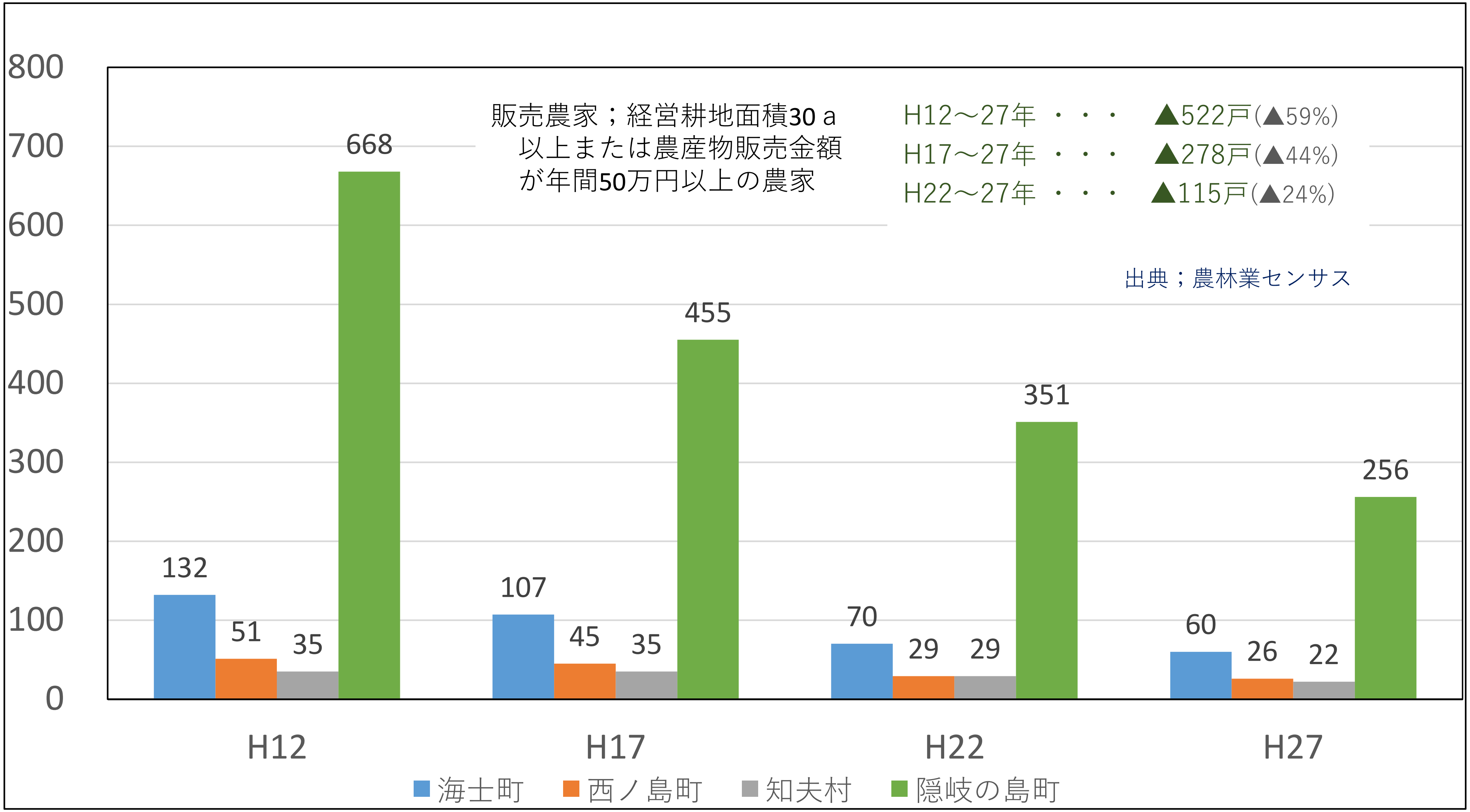
1 耕地面積の推移

○ 耕地面積は、年々減少する傾向。10年前に比べ平成30年度は、５％程度減少。
○ ３０年度耕地面積は、海士町197ha,西ノ島町32ha,知夫村16ha,隠岐の島町649ha。



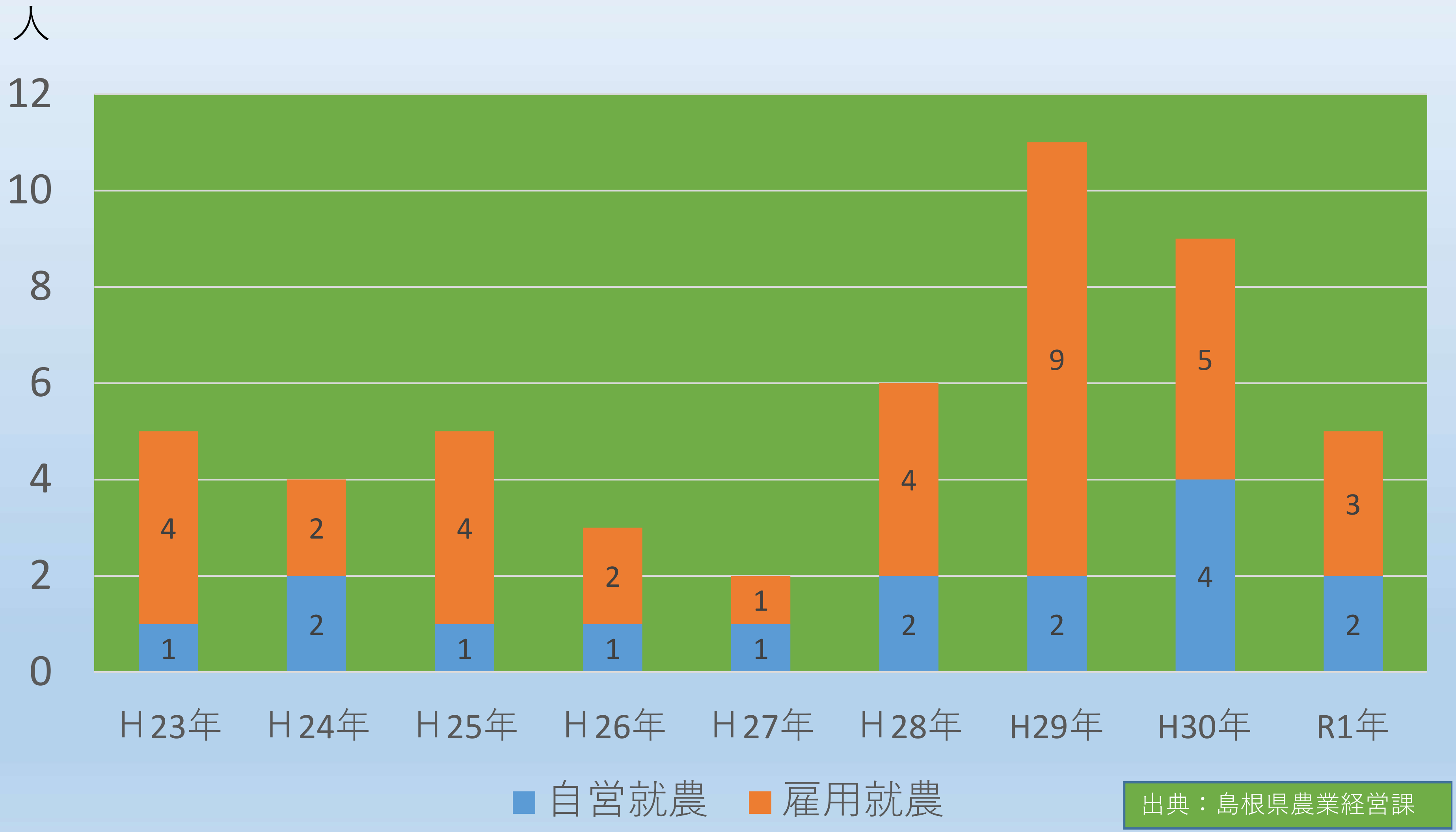
2 販売農家数の推移

○ 販売農家は年々減少する傾向。H12年からこの15年で40%まで減少。
○ H27年度の販売農家数364戸のうち、隠岐の島町が70%、海士町が15%と続く。



3 新規就農者数の推移

○ H23年～R１年の９年間で、新規就農者５０名（うち自営就農１６名）。
○ 近年は「半牧半X」の新しいライフスタイルを目指すU･Iターン就農者が増加



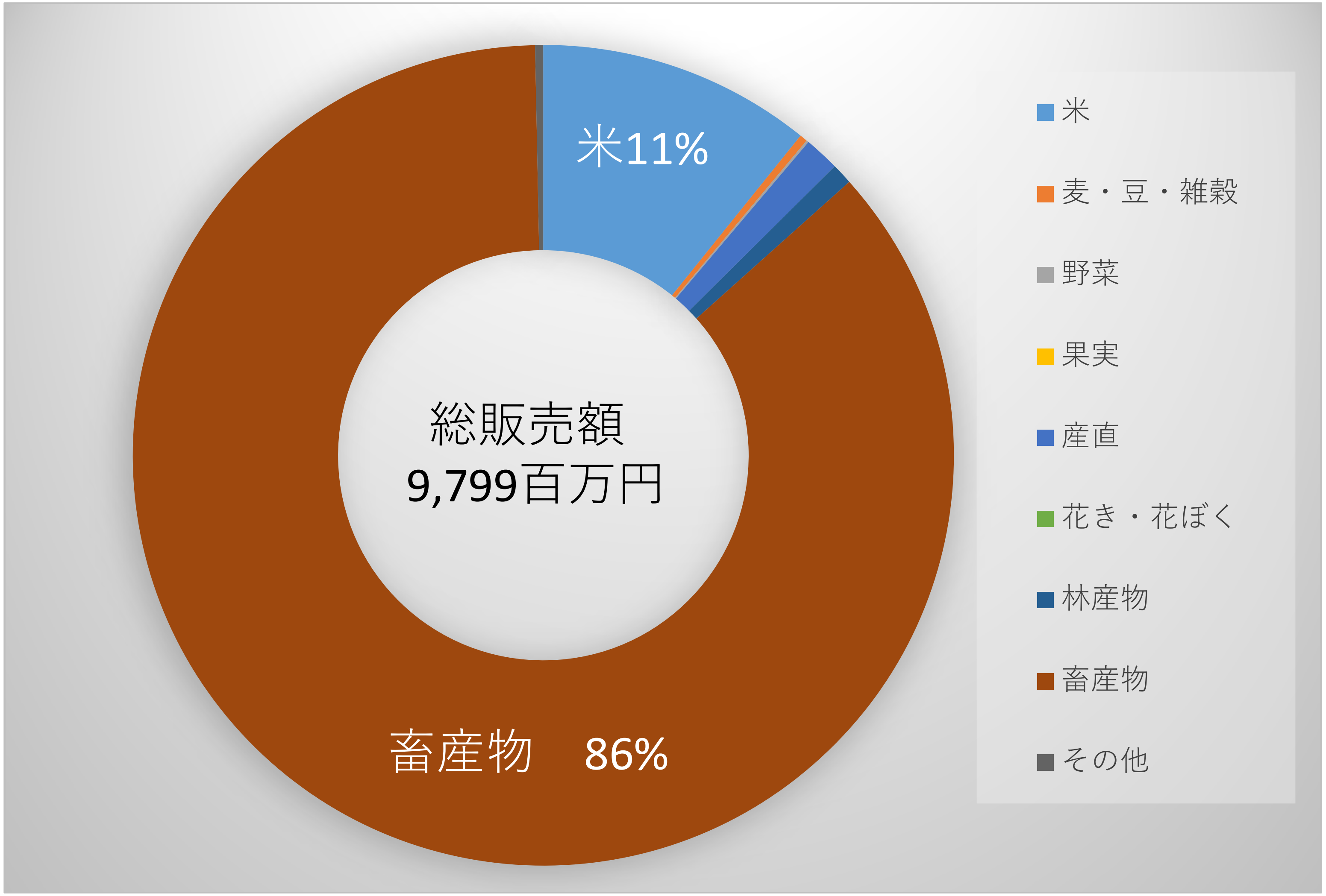
出典：島根県農業経営課

４　ＪＡ品目別販売額（Ｒ１年度）

○ ＪＡしまね隠岐地区本部とＪＡしまね隠岐どうぜん地区本部の総販売額は約１０億円。
○ 畜産物が最も高く約８６％、米が約１１％、産直が約１％。野菜や果実はわずか。

品目別販売額（R1年度）

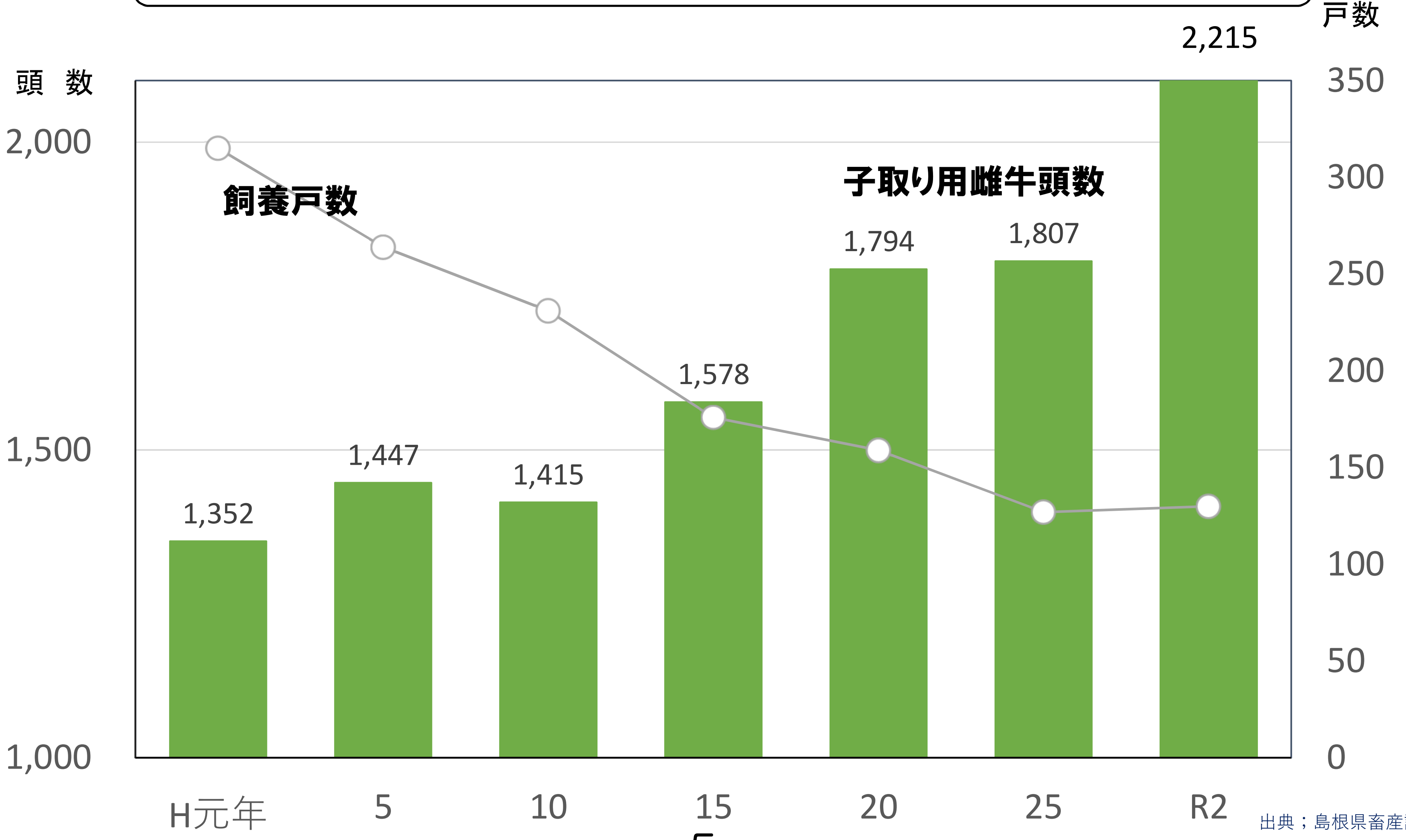
ＪＡしまね隠岐地区本部＋隠岐どうぜん地区本部



出典；JAしまね　通常総第会資料

5 肉用牛の飼育戸数、頭数の推移

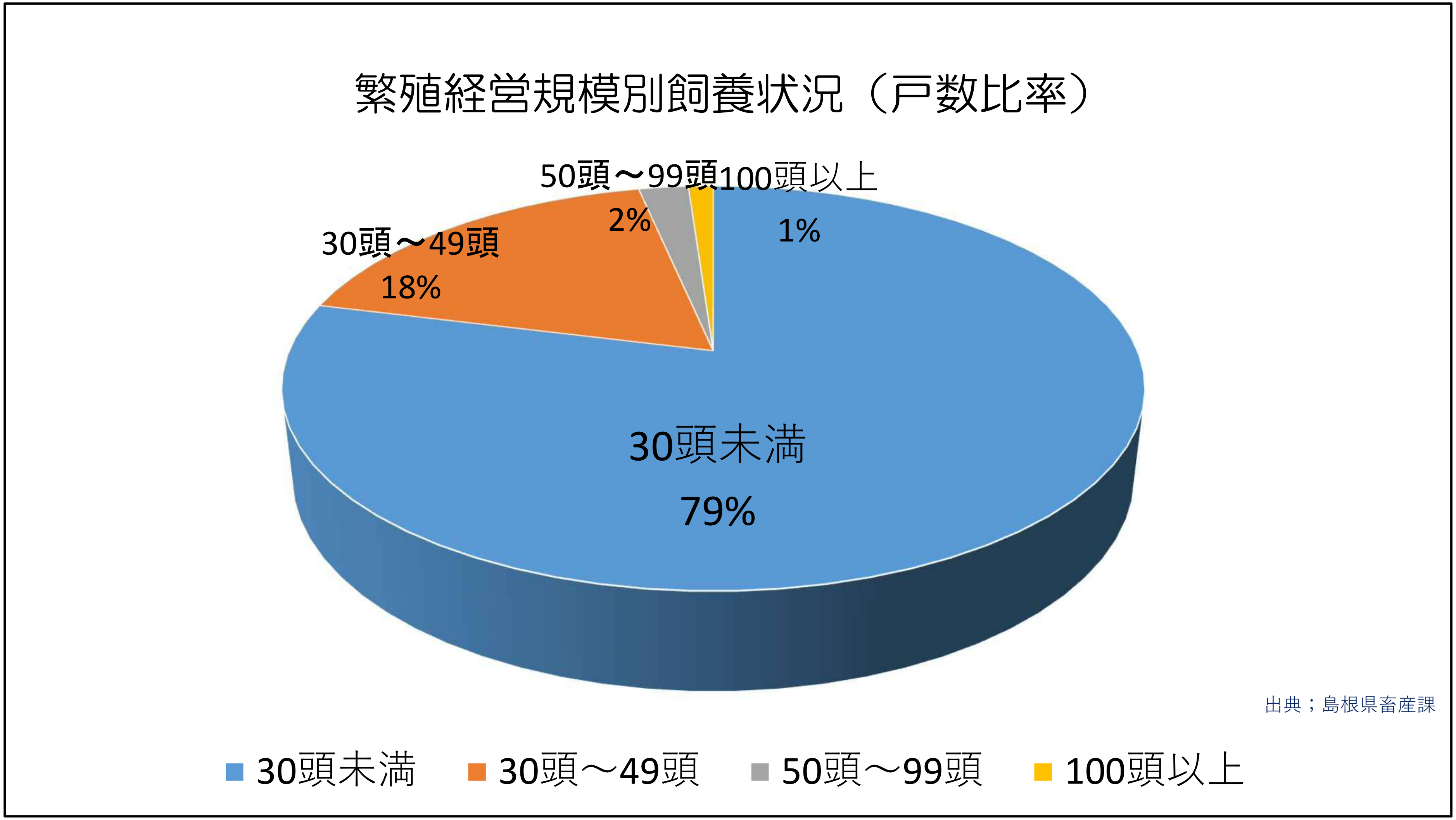
○ 肉用牛の飼養戸数は年々減少。Ｒ２年は130戸。
○ 一方、子取り用雌牛（繁殖牛）頭数は増加傾向。H30年から2,000頭を越えた。



出典；島根県畜産課

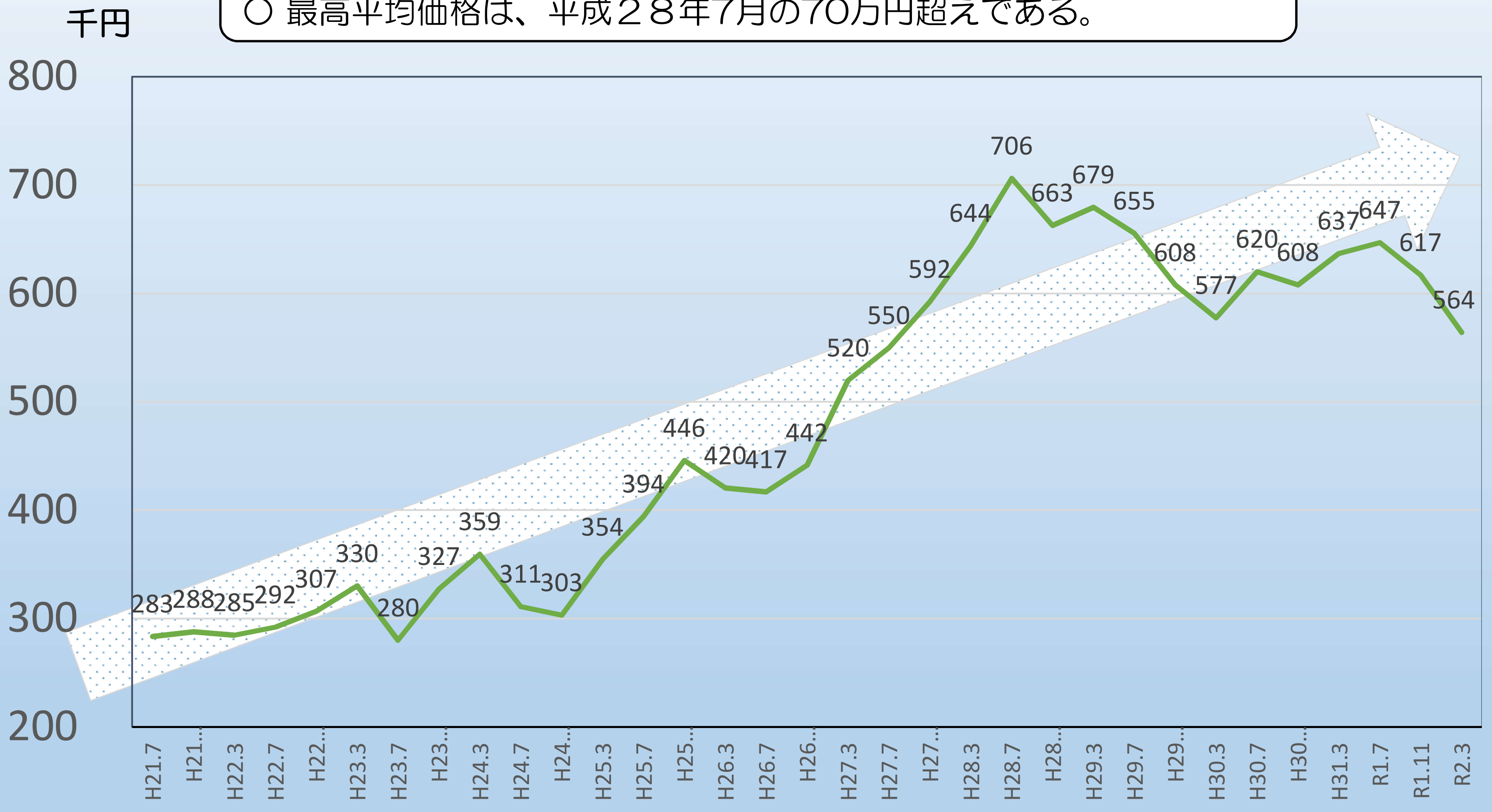
6 規模別飼養農家数等（R2年2月現在）

○ 30頭未満の農家は約８割と多い。３０頭以上の飼養農家は約２割（19戸）。
○ 50歳未満の和牛繁殖農家は30%。県平均の10%に比べ高い（比較的若い）。



7 隠岐地区子牛市場平均価格の推移

○ この１０年間で平均価格は、約２倍の約６０万円と倍増。
○ 最高平均価格は、平成２８年7月の70万円超えである。



出典；ＪＡしまね

8 農業参入企業の概要

○建設業を中心とした農外からの参入企業は、１５年で９社（畜産：６、水稲：２、その他：１）。
○和牛の繁殖･肥育経営に６社が参入（H16年～23年：建設業５社、H29年：精肉焼肉店１社）。

	企業名	参入年度	町村名	参入形態	既存業種	参入部門
①	(有)隠岐潮風ファーム	H16	海 士 町	子会社設立	建設業	畜産(繁殖牛・肥育牛)
②	(有)村上建設	H18	隠岐の島町	直接参入	建設業	畜産(繁殖牛)
③	(株)吉崎工務店	H18	隠岐の島町	直接参入	建設業	原木しいたけ、野菜
④	(有)アグリおき	H18	隠岐の島町	直接参入	建設業	畜産(繁殖牛・肥育牛・レストラン)
⑤	(有)横地建設	H19	隠岐の島町	直接参入	建設業	水　　稲
⑥	(合)いざなぎ牧場	H19	西ノ島町	子会社設立	建設業	畜産(繁殖牛)
⑦	勝部表装 有限会社	H22	隠岐の島町	直接参入	内装・印刷業	水　　稲
⑧	(株)だんだん牧場	H23	隠岐の島町	子会社設立	建設業	畜産(繁殖牛)
⑨	(有)おき精肉店	H29	隠岐の島町	直接参入	精肉･焼肉	畜産(肥育牛)

Ⅱ 主な取組について

1 隠岐牛の産地強化の取組

(1) 放牧による低コスト生産

■隠岐の畜産の文化

○隠岐では、鎌倉時代から牛馬の放牧が行われ、江戸時代には作物と放牧が交互に輪作される「四圃式農法」が定着。

○離島ゆえの自給自足。４つの「牧畑（まきはた）」に区分し、放牧と畑作を組み合わせる隠岐特有の「四圃式農法」。

○昭和30年代後半からは、牧畑での畑作が姿を消したその後、町村等が管理者となり、「公共牧野」として利用。

■放牧のメリット

○放牧は、舎飼に比べて飼料費が10%、減価償却費が20%程度削減できる。

○また、労働時間は約15%短い。

（低コスト化・省力化が可能）

繁殖和牛40頭規模　舎飼･放牧の経営比較　（単位：千円、時間）

区分	舎飼40頭	放牧40頭	差（B-A）
粗収益	15,622	15,450	-172
経営費	13,416	12,087	-1,329
うち購入飼料費	4,960	4,624	-336
うち自給飼料費	1,847	1,638	-209
うち減価償却費	3,611	2,919	-692
所得	2,206	3,363	1,157
労働時間	2,544	2,177	-367
1日当たり所得	7	12	5

(2) 放牧場の整備

■放牧場の現状と課題

○現在、隠岐地域の公共牧野は、４町村合計で約4,700ha（海士町:1,434ha
　西ノ島町:2,296ha　知夫村:654ha　隠岐の島町:276ha）。

○放牧場の整備を行う一方で、管理できない放牧場も増加傾向にある。

（牧野場の機能強化と牧養力の向上を計画的に実施中）

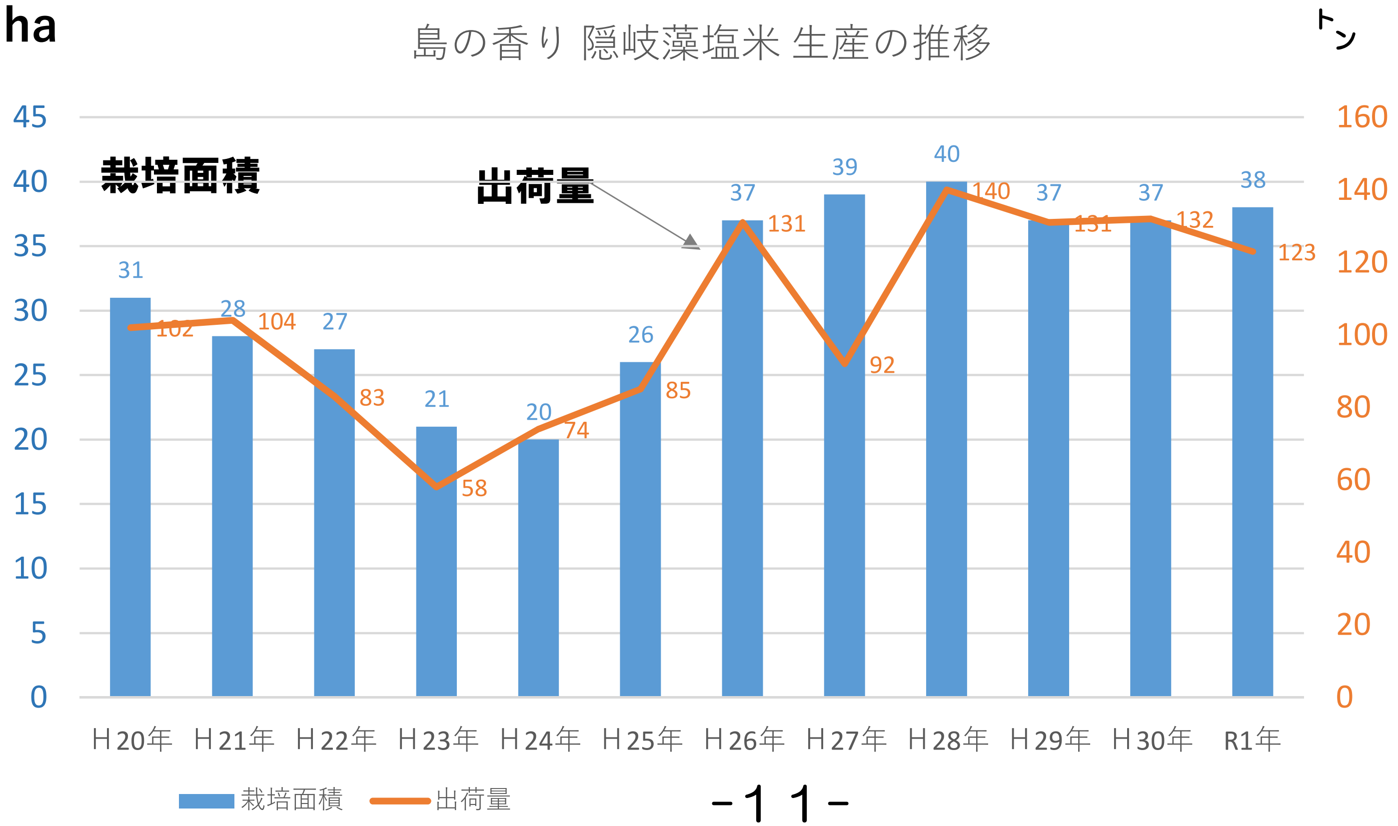
牧野場の整備メニュー

区分	内容
牧野の新規整備	雑灌木除去等
牧野の機能強化	牧柵設置、管理道整備、水飲場整備、テキサスゲート･つなぎ場整備等
牧養力の向上	シバ型草地改良等

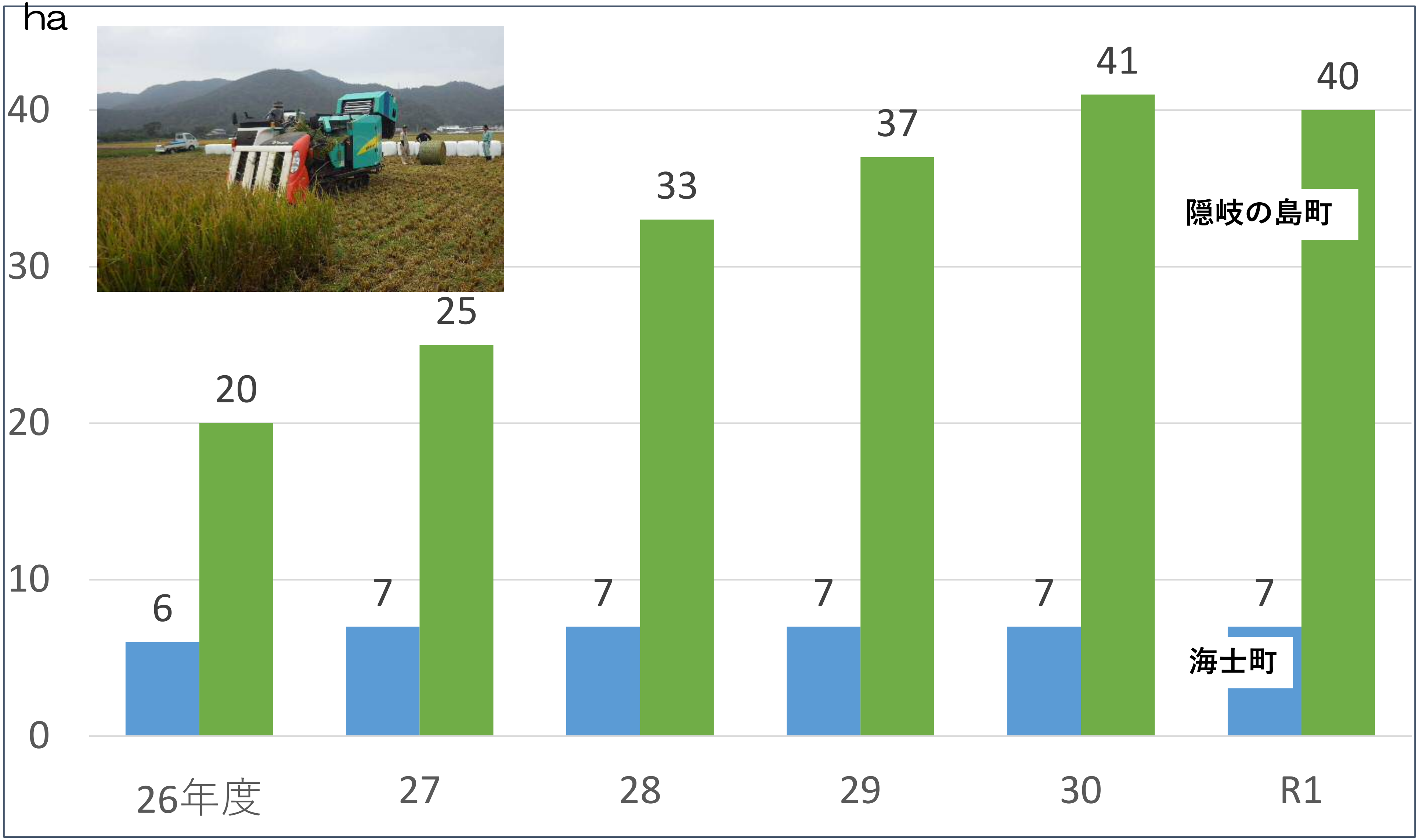
2 水田農業の取組

(1) 島の香り隠岐藻塩米

○取組主体；隠岐の島町水田営農経営研究会 藻塩部会
○部会員数；１９名　　　○生産面積；３８ha（うちコシヒカリ26ha、きぬむすめ12ha）
○栽培方法；最大の特徴 ⇒ 出穂後に藻塩水溶液を稲体に散布
土づくりの徹底、減農薬(5割～7割減）、出荷基準の設定(食味値、整粒歩合など)
○食　味　；うま味としっかりとした食感　時間経過で甘み、しっかり感が増す
○出荷先　；大手米卸、量販店、ふるさと納税など



（2）稲ＷＣＳ面積の推移（海士町、隠岐の島町）　　　品種：夢あおば、たちすずか等



３ 地産地消の取組

■現　状

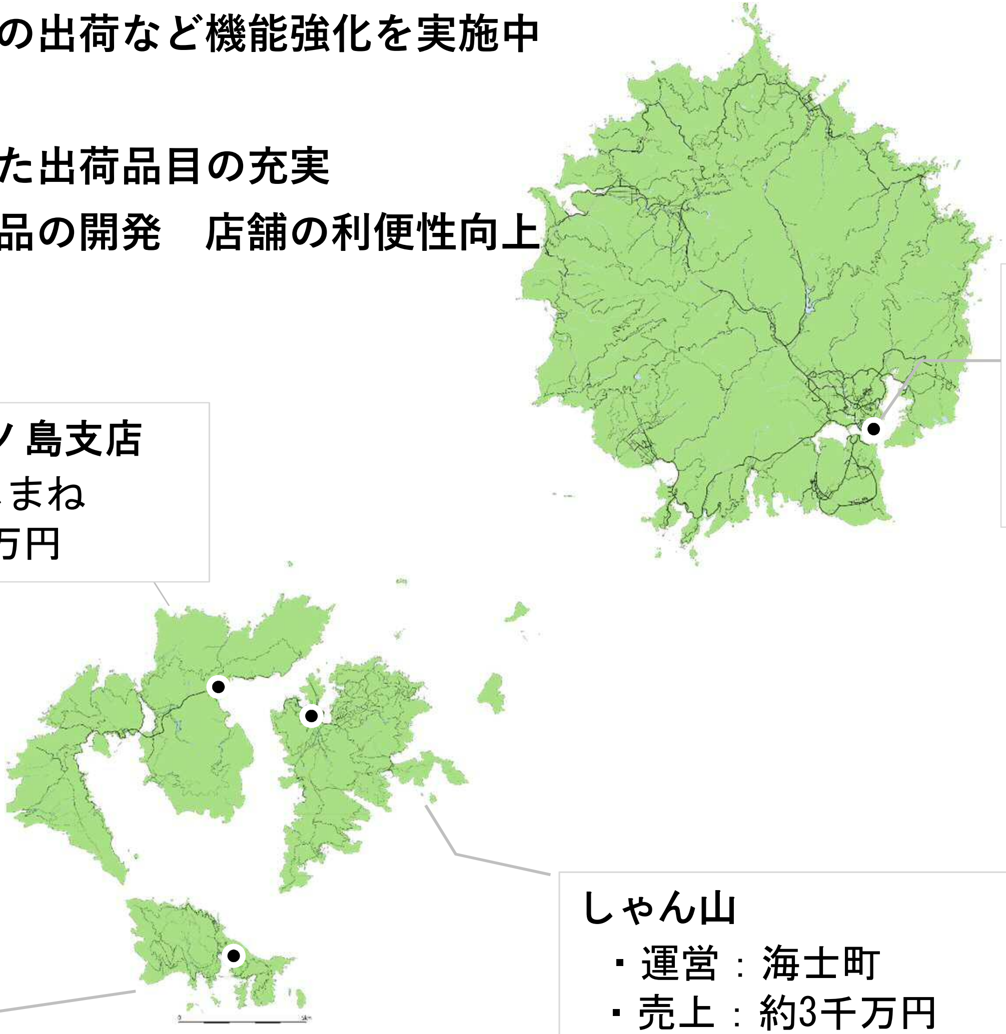
〇各町村に農産物直売所が設置　出荷者は60代以上が中心

〇減農薬の取組や学校給食への出荷など機能強化を実施中

■今後の取組方向

〇リースハウス導入等を通じた出荷品目の充実

〇出荷者の掘り起こし　加工品の開発　店舗の利便性向上



あんき市場
- 運営：隠岐ふるさと直売所協同組合
- 売上：約3千万円

ＪＡグリーン西ノ島支店
- 運営：ＪＡしまね
- 売上：約1千万円

ＪＡグリーン知夫支店
- 運営：ＪＡしまね
- 売上：約2百万円

しゃん山
- 運営：海士町
- 売上：約3千万円